



グローバルレスポンシブルビジネス

－ コミュニティ －

様々なコミュニティと協働し、地域社会の発展につながる社会貢献活動を推進します。また、事業活動との相乗効果を重視し、豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供するとともに、社会への貢献を通じて、社員自らのスキル開発や富士通で働くことへの誇りを向上させていきます。

コミュニティ活動

目標

ありたい姿

地球社会への帰属意識を有する社員が、社会課題への共感性を高めて活動を共創することで、社会のみならず経済・ビジネスによりインパクトをもたらしている。

創出したインパクトを評価・分析、発信し、さらなる価値を社会に提供している。

2022 年度目標

企業文化および社員のマインドセット変革への貢献

KPI : 社会課題に関連した社会貢献活動に参加した従業員数の増加率
 ニューノーマル下において、2019 年度比 +10%

コミュニティ活動の考え方

富士通グループは、我々にとって重要なステークホルダーの1つである地域社会と協力しながら、特色ある活動を国内外の各地で展開してきました。これからは、2020年に新たに定めたパーパスの実現のため、富士通グループの国内外の活動をより一体的に推進し、これまでに地域で築いてきた信頼をグローバルなものに高めていきます。そして、社会が抱える課題の解決のために、我々のビジネスの強みを最大限に発揮できる分野を中心に、より大きな価値創造を進めていきます。さらに、国内外での活動が創出したインパクトを定量的に把握する体制を整備・拡充し、活動を見直し改善するサイクルを実現することで、大きな価値を創出し続けます。

2020 年度実績

社会貢献活動に関わる支出

富士通が2020年度に社会貢献活動に関わる費用として支出した金額は、以下のとおりです。

コミュニティ活動支出

イベント協賛など
406百万円

マネジメント経費
40百万円

製品やサービスの
無償供与など
1百万円

有給での従業員
ボランティア活動の
金銭価値
2百万円

現金での寄付
685百万円

コミュニティ活動支出
1,133百万円

社員のボランティア活動支援

富士通グループは、社会に対する社員一人ひとりの積極的な貢献活動を支援するため、ボランティア活動支援制度を整備しています。また、各事業所が所属する地域コミュニティの発展に貢献するため、地域の特性に沿った各種活動プログラムを展開しています。富士通は青年海外協力隊/シニア海外ボランティア参加のための休職制度（最高3年間）や、年5日・最高20日まで積立可能なボランティアのための休暇制度を設けています。2020年度には、2名が積立休暇を取得し（延べ8日）、ボランティア活動を行いました。

社会課題解決に向けた活動

Centrica 社との協働によるホームスクーリング支援（イギリス）

新型コロナウイルスの影響で、多くの子供たちが自宅から遠隔教育を受けるようになりました。Fujitsu UK は、Centrica 社と協力し家庭環境により満足に遠隔教育が受けられない家庭に対して、古いビジネス用ノートパソコンを改修して無償提供するシステムを実現し、これまでに約 350 台を提供しました。パソコンの状態評価とクリーニング、データの安全消去、最新 OS のインストールと最終テストを行い、翌日には各家庭に配送しています。外に出られず自宅にいる間も、このパソコンを使うことで友人や教師とコミュニケーションを図ることができるようになるなど、子どもたちの心理面のケアにも貢献しました。



提供したノートパソコンで遠隔教育が可能に

NPO 法人と協働した授産品購入による障がい者就労支援（日本）

授産品販売を行う認定 NPO 法人と協働して、富士通のグループ会社である富士通 IT マネジメントパートナー株式会社および関西の富士通事業所にて、全国の障がい者作業所で作られる魅力的な授産品の社内販売会の企画および運営を行いました。在宅勤務の社員でも出社した際にいつでも購入できる常設型無人ワゴン販売「プチマルシェ」を考案し、NPO 法人とともに商品の企画選定をして定期的に商品入れ替えを行うなど、販売を継続し売上の拡大につながりました。当社社員にとっては社会貢献の意義を理解するきっかけとなり、NPO 法人にとっても販売ノウハウを向上させる機会となりました。魅力的な商品を生産しても販売に不慣れな障がい者作業所や NPO 法人の課題と、身近な社会貢献がしづらいという当社社員のマッチングが実現したことで地域社会の活性化にも貢献しています。



常設型無人ワゴン販売「プチマルシェ」

米国 NPO 団体 Kiva を通じた途上国起業家への融資支援

富士通のグループ会社である Ridgelinez 株式会社は、変革を志すリーダーの伴走者となり「人」を起点にすべての変革を発想し戦略、デザイン、テクノロジーをクリエイティブに融合する変革創出企業です。社員一人ひとりが SDGs やサステナビリティへの貢献を自分事として意識することが重要と考えており、その実践として、マイクロファイナンス（注 1）による途上国の起業家への融資を支援する米国 NPO 団体 Kiva Microfunds プログラム（注 2）に参加しています。持続的な支援（融資）を可能とする Kiva クラウドファンディングプラットフォームを通じて、より多くの収穫を目指した農機具の購入、子どもたちのモバイル学習のための通信環境整備、地域の人々の健康を支える薬局の開業など、起業家

に対して新しいビジネス機会を提供しています。変革を志すリーダーの想いを知り、その活動を支援することで「自らが世界や社会を変えていく」カルチャーを醸成しています。今後も、変革創出企業として、世界中の人々が生活を豊かに、また新たな事業に積極的にチャレンジしていけるように持続的な支援をしていきたいと考えています。

注1 生活に困窮する人々が事業を運営し、自立し、貧困から脱することを目的とした小口の融資/貯蓄などの金融サービス。

注2 2005年に設立された世界初の person to person マイクロファイナンス機関。インターネットを利用して発展途上国の個人事業主に融資するしくみ。



融資先である女性起業家

環境に関する社会貢献活動

富士通グループは、「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていくこと」を当社グループのパーパスと定めています。持続可能で豊かな社会の実現のため、本業を通じて社会へ貢献していくとともに、社員一人ひとりが企業市民として社会に貢献していきます。環境に関する社会貢献活動は、以下をご覧ください。

- 日本での活動
<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/activities/japan/>
- 海外での活動
<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/activities/global/>

自然災害による被災への支援

富士通グループは、自然災害による被害の復興に役立てていただくため、義捐金寄付などの支援を行っています。

- 2020年度
 - 「令和2年7月豪雨」被害への支援について
 - 「豪州森林火災」への支援について
 - 「令和3年2月福島県沖地震」への支援について
- 2019年度
 - 「令和元年台風15号および19号」被害への支援について
- 2018年度
 - 「北海道胆振東部地震」被害への支援について
 - 「7月豪雨」被害への支援について
- 2017年度
 - 九州北部の豪雨による被害への支援について
- 2016年度
 - 熊本地震 震災復旧・復興支援に向けてクラウドサービスを提供
 - 熊本地震被害への支援について

スポーツを通じた社会貢献活動

富士通グループでは、スポーツを通じた健全な社会貢献活動を展開しています。陸上競技部、アメリカンフットボール部

「フロンティアーズ」、女子バスケットボール部「レッドウェーブ」からなる富士通のスポーツ活動は、スポーツを通じて感動を共有し、より豊かな社会の創造と、人々の「心」と「身体」の健康増進に貢献します。また、その他にスポーツへの協賛やスポーツを通じた心のバリアフリーに向けた取り組みを進めています。

- スポーツへの協賛、スポーツでの貢献活動はこちらをご覧ください。
<https://sports-topics.jp.fujitsu.com/activity/>
- スポーツを通じた心のバリアフリー活動はこちらをご覧ください。
<https://sports-topics.jp.fujitsu.com/accessibility/>

文化・協賛活動

富士通の文化・協賛活動についてはこちらをご覧ください。

- 主催・協賛イベント
<https://www.fujitsu.com/jp/about/resources/advertising/event/>

ICT を活用した活動

SDG communities | 絆（富士通グローバル）

SDG communities | 絆は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の実現を通じて、社員がグローバルな仮想コミュニティに集うことを目的としたプロジェクトです。2020年からは新型コロナウイルスの影響で在宅勤務に切り替われ、従来のコミュニケーションが取りづらくなったことを受けて、SDGsを通じてFujitsu Wayを推進するための新しいコミュニティを創造しました。社内SNSを通じて、社員が各々のSDGを選び世界中の社員と協力し、同じ目標を共有することで富士通社員としてのアイデンティティの向上につなげていきます。SDG communities|絆への参加と行動を通じて、世界をより持続可能なものにするという目標に向かい、富士通のパーパスを実現するうえでSDGsの価値観を富士通の文化に組み込むことを目指しています。



SDG SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

From an ideal to one idea, we can change the world.

世界各国の活動の様子

女性IT人材”育成”を産学連携で実践

女子大生を対象としたICTコンソーシアム設立（日本）

Society5.0時代を牽引していく女性人材の育成を目指し、富士通グループを中心として産学連携による「女子大学生ICT駆動ソーシャルイノベーションコンソーシアム」を立ち上げました（津田塾大学・日本女子大学・FJCT・富士通・アシアルの2校、3社）。クラウドを活用したスマホアプリ開発のプログラミング授業や交流イベントを実施し、実践の場を設けて企業と大学の人材マッチングを促進します。本活動は、約40回開催し延べ143名の女子大学生が参加しました。プログラミング学習によるICTリテラシー向上、ビジネスに必要な企画力・プレゼンテーション力の養成に貢献し、IT人材の教育を支援していきます。



ICTコンソーシアムの風景

Ontenna プログラミング教育環境無償公開（日本）

聴覚障がい者が音を振動や光で感じることができる「Ontenna（オンテナ）」の開発、導入に取り組んでいます。Ontennaは髪の毛や耳たぶ、襟元や袖口などにつけて振動と光によって音の特徴をからだで感じるユーザーインターフェースです。現在、約8割のろう学校に無償で提供し、発話練習やリズム練習に活用いただいています。さらに全国のろう学校や教育機関での活用ができるよう、自身でプログラミングが可能なアプリケーションを開発し、反応させたい音の大きさに応じてOntennaの振動の強さや光の色を簡単にカスタマイズできるようにしました。従来のICT教育だけでは実現できなかった質の高い教育コンテンツが作成でき、また聴覚障がい者の皆様に新しい音の世界を感じていただくことができました。Ontennaを使ったプログラミング教育に興味のある学校・教育機関を対象とした無償貸出やプログラムのレンタルによって、より多くの人に触れられるようにすることで社会のダイバーシティの理解促進にも貢献しています。



Antenna 装着イメージ



振動の強さや光をカスタマイズ可能



ろう学校での実践活用

富士通 JAIME の運営

「国境を越えてより善い未来をつくる」

富士通 JAIME は 1972 年に当時の社長の「より善い未来をつくることのできる人財を養成したい」という強い想いにより、教育活動を目的に設立された一般財団法人です。設立以来、半世紀変わらず、その時代に必要な価値創造ができるリーダーの育成に取り組んでいます。2012 年からは時代に先駆けて「社会のために善いこと（共通善）」を追求できるリーダーの育成を掲げ、アジア・パシフィック地域において、自国・コミュニティの発展に寄与したい強い意志を持った人を対象に育成プログラムを提供しています。社会のために新しい価値を創造できる人材を育み、ビジョンを実現していきます。富士通は、運営・資金など活動の全面的なバックアップに加えて、富士通の実践知・技術・ノウハウを活動に織り込むことで、社会へのインパクトを創出する活動を推進しています。



プログラム参加者たち

- 一般財団法人富士通 JAIME についてはこちらをご覧ください。
<http://www.jaims.jp/>

富士通奨学金制度の運営

富士通は、1985 年に将来にわたり日本と世界をつなぐビジネスエリートを育成する目的で「富士通奨学金制度」を創設しました。現在は、自分の所属するコミュニティにより善いインパクトを与えるリーダーを育成するために、アジア・パシフィック地域のビジネスパーソンを対象に、富士通 JAIME の教育プログラムに参加する機会を提供しています。

富士通は、ビジネスリーダーの育成、文化交流や相互理解の促進を通して、自国や自コミュニティへの貢献を考える人たちに奨学金を授与し、国際地域社会に根付いた教育の提供を通して社会に貢献しています。



富士通奨学金受給者たち

- 富士通奨学金制度 (Fujitsu Scholarship) についてはこちらをご覧ください。(英文サイトのみ)
<https://www.fujitsu.com/global/about/csr/activities/community/scholarship/>

外部団体との協業

社会や環境において様々な課題が山積する昨今、企業は、お客様や投資家の皆様へはもちろんのこと、社員やサプライヤー、大小様々なコミュニティなど、あらゆるステークホルダー（利害関係者）に対し責任を持つべきという考え方が国際的に広まりつつあります。

富士通はこの考え方に共鳴し、国際団体や志を同じくする様々な企業と連携しながら、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいます。

持続可能な発展のための世界経済人会議（WBCSD）への参画

WBCSD（The World Business Council for Sustainable Development、持続可能な発展のための世界経済人会議）は、グローバル企業約 200 社の CEO が率いる団体で、ビジネス活動を通じて持続可能な社会を実現することを目的としています。WBCSD では、ピープル・サーキュラーエコノミー・価値の再定義・都市とモビリティ・食と自然・気候とエネルギーの 6 つの経済システムの変革を提唱しています。富士通は 2013 年より参画し、複数のテーマでの活動を続け、2018 年からは理事に就任しています。



WBCSD では、富士通も参加し、2021 年 3 月に 2050 年までの長期ビジョン「Vision2050：Time to Transform」を策定しました。「2050 年までに 90 億人以上の人々が地球の限界内で豊かな暮らしを送る」社会の実現に向けて、国際的な課題やロードマップ等をまとめたもので、18 か月以上に及び 20 か国 200 以上の企業とステークホルダーの意見を反映して作成されました。

「Vision2050：Time to Transform」では、エネルギー、製造と資源、健康とウェルビーイングなど企業が果たすべき 9 分野におけるトランスフォーメーションを明らかにし、今後 10 年間の具体的アクションを示しています。

富士通のパーパスは「Vision2050：Time to Transform」と目指す方向が一致しており、引き続き、サステナブルな社会の実現に向けて取り組んでいきます。

- WBCSD
<http://www.wbcasd.org/>
- Vision2050 特設サイト
<https://timetotransform.biz/>



世界経済フォーラム（WEF）への参画

世界経済フォーラム（WEF: World Economic Forum）は、経済学者であるクラウス・シュワブ氏により設立された非営利財団で、グローバル・シチズンシップの精神に則り、パブリック・プライベート両セクターの協力を通じて、世界情勢の改善に取り組んでいます。そして、あらゆる主要国際機関や経済界、政界、学界、そして社会におけるリーダーと緊密に連携し、世界・地域・産業のアジェンダを形成しています。毎年1月には、スイス・ダボスで年次総会（通称：ダボス会議）が行われ、多国籍企業経営者や各国の政治指導者、知識人、ジャーナリストなど3,000名を超えるトップリーダーが一堂に会し、世界が直面する重大な問題について議論しています。



2021年は、新型コロナウイルスの影響により、オンラインイベントとして、1月25日から5日間の日程で、「ダボス・アジェンダ」が開催されました。「信頼回復に向かう重要な年」をテーマに、アフターコロナ時代の世界の経済・社会システムの再構築に向けたパートナーシップを見据え、各界のリーダーがバーチャルで活発な議論を行いました。富士通からは、社長の時田および副社長の古田が様々なセッションに参加し、サステナブルな社会の実現に向けて企業の果たすべき役割について、見識を深めました。

- 世界経済フォーラム（World Economic Forum）
<https://www.weforum.org/>